

4.6. ファイルのコピー、移動 -cp , mv コマンド-

ファイル操作の中で最も多く行われるのが、コピーや移動です。コピーには cp、移動には mv を用います。

cp [オプション] コピー元 (複数指定可能) コピー先
mv [オプション] 移動元 (複数指定可能) 移動先

コピー (移動) 先が特定のディレクトリでなく、今いるディレクトリであれば、“.” を用いることができます。また、ホームディレクトリへのコピー (移動) であれば、チルダ (“~”) が利用可能です。また、この時にファイル名を変更することが可能です。変更したいときにはコピー (移動) 先に新しいファイル名を指定して下さい。オプションとしてよく使うのは以下のものです。

- v (verbose=言葉数が多い) 作業過程を詳細表示します。UNIX のコマンドは寡黙なものが多く、エラーが発生しない限り何も表示しない場合が頻繁にあります。このオプションは、ls コマンドだけでなく広く用いられています。
- f (force=強制的に) 上書きが発生するときに強制的に処理します。
- i (interactive=対話式の) 処理対象となるファイルに対し、処理ごとに「本当に実行するか」を質問してきます。“y” と答えると処理 (実行) します。
- r (recursive=再帰的な) 入れ子構造のディレクトリごと処理します。

では実際にファイルをコピーしてみましょう。ここでは、/etc/services というファイルをホームディレクトリにコピーしてみます。実際に試して下さい。